

## 競輪事業の今後のあり方の方針について

本市の競輪事業について、平成28年6月に包括委託事業者から提案を受け、事業実施の検討を進めてきたところですが、関係団体等との調整状況などから、このたび、事業実施に向けての条件が整い、今後のあり方の方針がまとまりましたので、お知らせします。

### 1 経緯

昭和24年に開始した本市競輪事業は、レジャーの多様化、ファンの固定化などの様々な要因により、車券売上は平成7年度をピークに減少をしてきていた。

そのような中、平成25年度から包括委託の実施を開始し、管理運営経費等の縮減を図っていたが、車券売上の長期低落傾向に歯止めがかからない状況があったことから、平成26年度には、平成29年度末の事業廃止に向けて検討を進めることとしていた。

平成28年6月に、現在の包括委託事業者から国際ルールに準拠した競走（以下「250競輪」という。）の実施について提案を受け、市として各種検討や関係団体等との調整・協議を進めてきた結果、250競輪による事業実施の方向性がまとまり、競輪実施に向けての協力を依頼する文書を関係団体に対して平成29年9月12日に提出した。

### 2 検討状況

#### (1) 事業者からの提案内容

ア 事業者が、千葉競輪場の敷地において、施設整備費用を負担のうえ、国際規格の自転車競技トラック（周長250mの屋内木製トラック）を有する多目的競技場を整備・運営する。

イ 本市競輪事業について、平成30年度以降においては、上記多目的競技場完成までは他場の借上げにより、また、完成後は当該競技場における国際ルール準拠の競走により実施する。

#### (2) 関係団体等との検討状況

ア 250競輪実施について、関係団体（JKA、全国競輪施行者協議会、日本競輪選手会）及び経済産業省へ意見等を聴取のうえ、平成28年12月に、千葉市が事務局となり、本市及び関係団体を構成員に、経済産業省をオブザーバーとする検討の場を立ち上げ、協議を実施。

イ JKAにおいても、平成29年3月に伊豆ベロドローム（国内唯一の国際規格自転車競技トラック）で250競輪のテストランを実施し、今後、観客を入れたテストイベントを実施予定。

ウ 競輪業界としても、平成29年4月から「250KEIRIN ワーキンググループ」を開催し、250競輪の実施に向けた検討を実施しており、本市も8月から出席。

エ 全国競輪施行者協議会においても、平成29年8月から「ワーキンググループ」を開催し、本市の実施案に関する協議調整を実施。

オ 並行して市内において、公営競技としての健全な経営継続の見込みや、施設整備にあたっての敷地の取扱いなどの検討を進め、実施に向けての条件が整った。

### 3 今後のあり方の方針

250競輪による事業継続について、具体的な調整・協議を進め、250競輪実施に向けた取り組みを進めるものとした。